

申し込み順ですので、お早めにご関係の部・課へご回覧ください。→ <http://itpro-store.jp/snc130702/>

日経コンピュータ **グローバル人材育成プログラム** 全5回

ブリッジPM・SE育成実践塾

オフショア開発プロジェクトの成功率を高めるために
ブリッジPM・SEに求められるスキルと手法を身に付ける

2013年7月
開講コース

【開催日程】全5回／2013年7月2日(火)、3日(水)、8日(月)、11日(木)、12日(金)

【開催時間】9:30～18:00(5回全て)

【会場】アーバンネット神田カンファレンス(東京都千代田区)

【主催】日経コンピュータ

開講にあたって

ブリッジSEがオフショア開発成功のカギを握る

システム開発の一部作業をアジアなどのIT企業に委託する「オフショア開発」が始まってから20年。先行する企業は、言語や文化、商習慣などの違いに苦しみ、時には失敗を重ねながらも、成功への方策を探ってきました。次第に日中双方の理解は深まり、中国側のエンジニアたちの技術力や品質に対する考え方は進化を遂げ、オフショア開発を利用したシステム開発手順も確立してきました。ただ、国内ですべての作業をこなす場合と比べるとまだ成功率は高くなく、不要な手戻りなどによってせっかくのコスト削減効果を打ち消してしまうことが少なくありません。遠く離れた拠点を行き来する「ブリッジSE」の個人的なスキルに成否が依存するといった悩みを抱える企業は少なくないでしょう。

今、尖閣諸島をめぐる問題から日中の緊張関係は高まっていますが、それでも日本におけるオフショア開発の発注先は、全体の約8割が中国に集中していると言われる現状を考えると、今後も中国のIT企業は日本にとって重要なオフショア開発の重要なパートナーであり続けると言えるでしょう。日中関係に逆風が吹く今こそ、オフショア開発の開発手順に磨きをかけて、さらなるコスト削減や開発スピード向上といったメリットを出していく必要があります。

そのカギは、ブリッジSEのプロジェクトマネジメント力にかかっています。そこで日経コンピュータは、オフショア開発に必要なスキルや知識、ノウハウを体系的に習得できる研修を用意しました。

研修では、オフショア開発の経験者が講師を担当し、開発成功に向けた様々な実践的な教育を提供します。具体的には、文化や商習慣の違い、距離の制約を乗り越えてコミュニケーションを図る方法、中国のIT技術者に品質管理の重要性を伝える方法、中国側が主体的に日々の品質管理業務をしっかりとこなすようにする方法などです。その他にも、実践型のプロジェクトマネジメント技法やケーススタディなども取り入れ、オフショア特有の問題点とその解決策について学んでいきます。大連などオフショア開発現場の最前線で多くのプロジェクトを成功に導いてきた講師陣が、他にはないリアルな実践型教育を実施することで、現場での即戦力に繋がるノウハウを習得することができます。

受講頂きたい方

日本及び中国で活躍するIT業界のプロジェクトマネージャー、システムエンジニア、プログラマーの方々。

- ◆現在、オフショア開発を委託されている会社のPM、SE、PGの方。
- ◆オフショア開発の委託をご検討中の会社のPM、SE、PGの方。
- ◆オフショア開発のプロジェクト責任者、及び、プロジェクトに関係している方。

受講料

5回コース 定員50名

1名申込み ▶ 318,000円(税込)

2013年6月21日(金)までにお申し込みいただくと、上記金額から20,000円引きとなります。

早期申込割引価格 ▶ 298,000円(税込)

2名以上のお申し込みをおすすめします

2名同時申込み ▶ 558,000円(税込)

一人あたり 279,000円

<受講料に含まれる内容>

参考書籍「オフショアプロジェクトマネジメント[SE編]」(幸地 司、霜田 寛之著、技術評論社) / 「オフショアプロジェクトマネジメント[PM編]」(幸地 司、霜田 寛之著、技術評論社) / オリジナルテキスト / 昼食代

※すでに参考書籍を所有されている場合でも社内研修教材としてご活用くださいますようお願い申し上げます。
※3名以上の同時申込は別途お問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ先

日経BP社読者サービスセンター TEL:0120-255-255 (土日祝日を除く 9:00～17:00 携帯電話・PHSからは 03-5696-1111) FAX:03-5696-1139
セミナー係 <http://itpro-store.jp/snc130702/>

ブリッジPM・SE育成実践塾 申込書

下記の必要事項をご記入の上、A4のままでお送りください。 ※FAXでの申込締切：6月26日(水)まで

※2名同時お申し込みの方は、代表者のお名前を記入してください。

フリガナ

受講者名

フリガナ

会社名 ※正式名称をご記入ください。

部署・役職名

〒

住所

会社所在地

TEL. FAX.

e-mail:

お申し込み人数 1名申込み 318,000円(税込) 2名申込み 558,000円(税込)
お申し込みになる人数を下記に☑してください。 ※2013年6月21日(金)までにお申し込みいただくと早期申込割引価格 298,000円(税込)が適用されます。

恐れいりますが、下欄の業種・部署・役職区分の番号に1つずつ○をお付けください。

0. 製造業－消費財	5. ホテル・レジャーサービス	0. 総務・庶務	5. マーケティング	10. 研究開発	0. 経営幹部	5. 専門職
1. 製造業－生産財	6. 金融・保険業	1. 人事・労務	6. 広報・宣伝	11. 情報システム	1. 監査役	9. その他(個人含む)
2. 卸・小売業	7. 建設・不動産	2. 経理・財務	7. 秘書	12. 国際・貿易	2. 部長・支店長	
3. 輸送業	8. コンピューター・情報処理業	3. 経営企画	8. 物流・輸送	13. 法務	3. 課長・係長	
4. 外食	9. その他	4. 営業・販売	9. 生産・工場	99. その他	4. 一般	

※ご記入いただいた住所やE-mailアドレスなどは、日経BP社からの事務連絡にも使わせていただきます。尚、これ以外に日経BP社および日経BPグループ会社から、各種ご案内(刊行物、展示会、セミナー等)やアンケート、広告主等の製品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。

※「個人情報取得に関するご説明」(<http://www.nikkeibp.co.jp/p8.html>)をお読みいただき、ご同意のうえお申し込みください。

ありがとうございました。

NC-SE-03
118-202-212

本講座のコンセプト



本講座の構成内容

↑ 応用 実践 エントリ	第5回	“実践”オフショアプロジェクトマネジメント
	第4回	オフショア開発ステップアップのための秘訣
	第3回	オフショア開発成功に導く方程式とその活用
	第2回	オフショア開発プロSEに必修の仕様伝達・レビューテクニック
	第1回	オフショア開発プロSEに求められる異文化コミュニケーション知識

エントリ オフショア開発における基本スキル

オフショア開発で最も課題とされる「言葉や文化の違いによるコミュニケーション不足」について体系的に理解した上で、SE技術である設計・開発・テスト工程でのコミュニケーション技法について例題演習を通して学びます。

実践 オフショア開発の成功のポイント

(1) オフショア開発の5つの課題を解決すべくオフショア事業成功の方程式を定義します。さらに、オフショアを成功に導く4つの要因と牽引力の関係について学べます。
(2) オフショア開発プロジェクトを組織横断的な立場から支援するPMOの標準化と持続的改善方法について学べます。

応用 プロマネのためのオフショア開発の実務

(1) グローバルソーシング組織の発段階に応じたキャリア開発の手法について学べます。
(2) ブリッジSE・PMのキャリア開発、日本人技術者のキャリア開発、オフショア拠点のキャリア開発の全体像が学べます。
(3) 総合演習を通して、オフショア開発プロジェクト未経験の受講生、未だ成功体験の無い受講生にも、当コースで習得した知識とテクニックを疑似的に実践する機会を得ることができます。

第1回

講師：三宅 雅文

オフショア開発プロSEに求められる異文化コミュニケーション知識

～コミュニケーションの壁を乗り越えオフショアプロSEになる!～

7月2日(火) 9:30～18:00(開場9:00) 12:00～13:00(昼休み)

- 【習得目的】
- オフショア開発のプロSEになるための必須のスキルと手法を理解する。
 - 言葉や文化の壁がプロジェクトに与える影響を理解し、その壁を乗り越える手法をマスターする。

第1部 オフショア開発の現在

1. オフショア開発とは何か

- 1-1 オフショア開発vs.アウトソーシング
- 1-2 オフショア開発プロジェクトvs.オフショア開発事業
- 1-3 オフショア開発vs.グローバルソーシング

2. オフショア開発を検討する前に

- 2-1 プロジェクトマネージャの限界 2-2 ブリッジSEの限界
- 2-3 オフショア開発コーディネータの限界
- 2-4 笛吹けども踊らない人々
- 2-5 揺らく日本人プログラマのキャリアパス

3. オフショア開発の5つの課題

- 3-1 関係構築 3-2 分散環境への適応
- 3-3 多言語コミュニケーション
- 3-4 異文化コミュニケーション 3-5 ガバナンスの確立

4. オフショア開発プロフェッショナルの条件

- 4-1 オフショア開発プロフェッショナルとは
- 4-2 オフショア開発プロフェッショナルの知識と技法

第2部 言葉と文化の壁を超えるコミュニケーション

1. 文化とは

- 1-1 文化の壁 1-2 言葉の壁
- 1-3 個人特性の違い 1-4 企業倫理がオフショアに与える影響

2. 組織行動と異文化コミュニケーションの基礎

- 2-1 動機づけ 2-2 コミュニケーションの役割
- 2-3 リーダーシップの型 2-4 衝突解決方法の違い
- 2-5 オフショア開発に影響する文化次元

3. 異文化適応によるプロジェクト推進力向上

- 3-1 「あらの呼吸」が成立する機構を知る
- 3-2 集団への帰属意識を認識する
- 3-3 意思決定ルールの不一致を調整する
- 3-4 チームを創る 3-5 組織の多様化をマネジメントする

4. 異文化適応による組織成熟度向上

- 4-1 異文化適応CAAIモデル
- 4-2 丸投げをやめてコントロールを取り戻す
- 4-3 日本の商習慣の一方的な押し付けから卒業する
- 4-4 日本式でもなく外国式でもなく第三の企業文化を醸成する

個人・グループの演習 これからオフショアプロジェクトを始めます。

オフショア開発を始めるにあたって何が必要なのか、プロジェクトを開始する際にまず何を考えたらいいのかを演習します。

【1】 オフショア拠点の選定

【2】 プロジェクトの立ち上げ



第2回

講師：若崎 博昭

オフショア開発プロSEに必修の仕様伝達・レビューテクニック

～異文化コミュニケーション知識のプロジェクト活用のコツ!～

7月3日(水) 9:30～18:00(開場9:00) 12:00～13:00(昼休み)

- 【習得目的】
- 第1回目で理解した知識を実際のプロジェクトで活用する技法を理解する。
 - 演習を通して、オフショア開発プロSEに必要な知識とテクニックを習得する。

第3部 仕様書の作成と伝達、仕様変更

1. 論理思考

- 1-1 論理思考の基礎 1-2 論理思考の基本フレームワーク
- 1-3 ソフトウェア開発における論理思考

2. 仕様書作成

- 2-1 仕様書をとりにく課題 2-2 外国技術者に伝わる日本語文章術
- 2-3 外国人技術者に伝わる文書作成術 2-4 複数文書間の整合性

3. 仕様伝達

- 3-1 仕様伝達前の準備と心構え 3-2 仕様伝達の実施と確認

4. 仕様変更

- 4-1 仕様変更の考え方 4-2 仕様変更を円滑に進める基本方針
- 4-3 仕様変更の対応計画 4-4 仕様変更の実施と監視コントロール
- 4-5 仕様変更の検証

第4部 設計レビューとソフトウェアテスト

1. 品質意識のすり合わせ

- 1-1 設計品質とプログラム品質 1-2 日本品質の特性

2. 品質の作りこみ

- 2-1 品質の作り込みの下準備 2-2 品質の作り込みの基本方針
- 2-3 品質可視化のための情報収集

3. 設計レビューの実施

- 3-1 オフショア委託先のレビュー実施状況を監視する
- 3-2 オフショア拠点を監督指導する

4. ソフトウェアテストの監視と受け入れ

- 4-1 テスト工程共通の留意点 4-2 単体テストの委託
- 4-3 結合テストの委託 4-4 受け入れテストの実施
- 4-5 ソフトウェアテストの評価分析

第5部 開発環境とセキュリティ

1. 開発環境の構築

- 1-1 開発環境の整備 1-2 ソフトウェアの海外持ち出し
- 1-3 輸出管理

2. セキュリティリスク対策

- 2-1 セキュリティリスク 2-2 セキュリティリスク対策計画
- 2-3 監視コントロール

3. プロジェクト終結時の処置

- 3-1 開発環境の破壊・返却 3-2 開発環境の維持・継続

個人・グループの演習 オフショア拠点を訪問し、仕様を伝達します。

オフショア拠点を訪問するにあたって何を準備したらよいのか、仕様説明はどのようにしたら良いのかを中心に、出張時の行動について演習します。

【1】 仕様書の記述 【2】 仕様伝達のコミュニケーション

【3】 Q&Aの管理

【スペシャル 이슈】

「これから始めるベトナムオフショア開発」

第3回

講師：岩崎 博昭

オフショア開発を成功に導く方程式とその活用

～現役PMが語るオフショア開発に失敗しない極意とは～

7月8日(月) 9:30～18:00(開場9:00) 12:00～13:00(昼休み)

- 【習得目的】
- オフショア開発の課題を認識し、開発成功の方程式について理解を深める。
 - オフショアプロジェクトの計画から見積、監視&コントロール、トラブル対応の技法を習得する。

第6部 オフショア開発の成功要因分析

1. オフショア開発の変遷

- 1-1 用語定義 1-2 経済成長を前提とした多重下請け構造
- 1.3 コスト削減の2側面

2. オフショア開発の5つの課題

- 2-1 海外オフショア拠点と良好な関係を構築し維持する課題
- 2-2 分散環境適応を実現する4つの課題
- 2-3 多言語コミュニケーションの課題
- 2-4 異文化コミュニケーションの課題 2-5 ガバナンス確立の課題

3. オフショア事業成功の方程式

- 3-1 事業成功の定義 3-2 一定規模の継続発注
- 3-3 標準化 3-4 トップダウン 3-5 国際化対応

4. オフショア事業成功の牽引力

- 4-1 成功要因と牽引力の関係
- 4-2 「総論賛成、各論反対」を押し切る推進力
- 4-3 計測とコントロール
- 4-4 グローバルソーシング戦略構築力 4-5 人材育成

5. オフショア開発プロフェッショナルの知識と技法

- 5-1 SEに求められる知識と技法 5-2 PMに求められる知識と技法

第7部 プロジェクト運営支援

1. プロジェクト運営支援の枠組み

- 1-1 プロジェクト計画 1-2 プロジェクト実行
- 1-3 プロジェクト監視コントロール

2. プロジェクト切り出し

- 2-1 プロジェクト視点による切り出し判定
- 2-2 プロジェクト工程別の切り出し判定
- 2-3 自社の視点からプロジェクト切り出し判定

3. 見積り・契約支援

- 3-1 見積り支援 3-2 契約支援

4. リカバリ介入

- 4-1 リカバリ介入(プロジェクトの火消し)の契機
- 4-2 リカバリ介入手段

5. プロジェクト監査

- 5-1 プロジェクト監査計画 5-2 監査実施
- 5-3 監査報告と教訓の蓄積

6. 進捗管理

- 6-1 進捗管理プロセスの計画 6-2 進捗実績把握
- 6-3 予実乖離状態の是正介入

7. 品質マネジメント支援

- 7-1 品質保証と品質コントロール
- 7-2 オフショアプロジェクト固有の監視項目
- 7-3 品質コントロールと監視方法

個人・グループの演習 リモートでオフショア拠点を管理します。

出張から帰国したあと、日本からオフショア拠点を管理する方法について演習します。

【1】 コミュニケーション管理 【2】 品質管理

【3】 スコープ管理 【4】 日程管理

第4回

講師：三宅 雅文

オフショア開発ステップアップのための秘訣

～標準化と持続的改善による組織成熟度アップの図り方～

7月11日(木) 9:30～18:00(開場9:00) 12:00～13:00(昼休み)

- 【習得目的】
- プロジェクト単体の成果から、持続的改善を繰り返す、一段の生産性向上や品質向上を図るための手法を理解する。
 - プロジェクト間の成果や課題を横断的に整理、活用するPMO活動について理解する。

第1部 標準化と持続的改善

1. コミュニケーション基盤の確立

- 1-1 人的コミュニケーション基盤 1-2 物理的コミュニケーション基盤

2. 会議運営方法

- 2-1 遠隔地点をつなぐ会議の基本概念
- 2-2 遠隔地点をつなぐ会議の技法

3. ノウハウ移転

- 3-1 ノウハウ移転の課題 3-2 目に見えるノウハウ
- 3-3 目に見えないノウハウ

4. ガイドライン

- 4-1 ガイドラインのライフサイクル
- 4-2 ガイドラインの作成 4-3 ガイドラインの展開
- 4-4 ガイドラインの定着 4-5 ガイドラインの更新

5. 企業文化の醸成

- 5-1 異文化理解の二原則 5-2 社内勉強会
- 5-3 社内親睦 5-4 海外オフショア拠点の取り組み

6. プロジェクト評価

- 6-1 準備 6-2 プロジェクト完了評価

第2部 グローバルソーシング戦略

1. グローバルソーシング戦略の本質と課題

- 1-1 グローバルソーシングの前提条件 1-2 日本型マネジメントの変遷
- 1-3 日本型産業モデルとグローバルソーシング戦略

2. アウトソーシング概念

- 2-1 用語定義 2-2 アウトソーシングによる効果
- 2-3 アウトソーシング実施プロセスの6段階

3. 意思決定－オフショア発注

- 3-1 オフショア可否判定 3-2 発注形態
- 3-3 資本関係のあるオフショア委託先との関係管理
- 3-4 資本関係のないオフショア委託先との関係管理
- 3-5 見逃されがちなオフショア発注先の選定基準

4. 意思決定－オフショアPMO設置

- 4-1 オフショアPMOの機能 4-2 オフショアPMOのタイプ
- 4-3 オフショアPMO設置の判断基準 4-4 オフショアPMOの評価

5. 意思決定－ポートフォリオマネジメント

- 5-1 ポートフォリオマネジメントとは 5-2 国や地域
- 5-3 技術や業務分野 5-4 人員配置

6. 出張者支援

- 6-1 日本人の海外出張支援 6-2 外国人の日本出張支援

個人・グループの演習 オフショアPMOの支援プロジェクトを推進します。

オフショアPMOの業務について、プロジェクトを推進するPMの立場とプロジェクトを支援するPMOの立場になって演習します。

【1】 PMO視点でプロジェクト管理

【2】 プロジェクトの切り出しについて 【3】 標準化と成熟度向上

【スペシャル 이슈】

「アジャイルをオフショア開発に適合させるコツ」

第5回

講師：三宅 雅文・岩崎 博昭

“実践”オフショアプロジェクトマネジメント

～オフショア開発現場で実際に役に立つプロマネの勘所～

7月12日(金) 9:30～18:00(開場9:00) 12:00～13:00(昼休み)

- 【習得目的】
- グローバルに活躍するブリッジSE・PMとして必要な知識とテクニックを、自社のプロジェクトに当てはめて活用できるよう実践的な演習を通して理解する。
 - グローバルソーシング組織の発達段階に応じたキャリア開発の手法について学べる。
 - ブリッジSE・PMのキャリア開発、日本人技術者のキャリア開発、オフショア拠点のキャリア開発の全体像を学べる。
 - 総合演習を通して、オフショア開発プロジェクト未経験の受講生、未だ成功体験の無い受講生にも、当コースで習得した知識とテクニックを疑似的に実践する機会を得ることができる。

オフショアプロジェクトマネジメントのまとめとして、グローバルソーシング時代に活躍する人材を計画的に育成する企業内人材育成について解説します。最後、全5日間を総括する総合演習問題を通して、オフショアプロジェクトを疑似体験し、知識とテクニックに対する理解を深めます。



第3部 企業内人材育成

1. 人材マネジメント概論

- 1-1 人材マネジメントを再考する理由
- 1-2 人材マネジメントの基礎知識

2. 目標設定と評価アセスメント

- 2-1 コンピテシー
- 2-2 QCDで表現できないオフショア事業目標

3. オフショア抵抗勢力が生まれる背景

- 3-1 オフショア抵抗勢力の特徴
- 3-2 ソフトウェア人材の世代別分析

4. オフショア利害関係者の動機づけ

- 4-1 多様性導入への抵抗を鎮める評価と報酬の枠組み
- 4-2 オフショア実務者に報いる報酬体系

5. グローバルソーシング組織のキャリア開発

- 5-1 グローバルソーシング発達段階
- 5-2 ブリッジSEのキャリア開発
- 5-3 日本人ソフトウェア技術者
- 5-4 駐在員 5-5 オフショア拠点の幹部

6. 異文化適応研修の企画と実施

- 6-1 研修トレーニング 6-2 オフショア拠点の自主勉強会
- 6-3 5Sと改善活動

個人・グループの演習 プロジェクトを完了し、オフショア開発について総括します。

プロジェクトの評価と人材育成を含めた今後のオフショアビジネス展開について演習します。

【1】 オフショア拠点の評価と今後 【2】 日本側の評価と今後

【3】 経営者の視点で 【4】 企業内人材育成

*プログラムの内容は、事情により変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

講師紹介



三宅 雅文氏

(みやけ まさふみ)

大連阿乐迪信息服务有限公司(C.E.O.) 株式会社ワイズ 特任講師

富士通SE会社に20年勤務後、中国大連市に、システムサービス会社を設立。富士通SE会社に在籍時は、2005年から中国オフショア開発の現場マネージャとして活躍し、多くの自社開発パッケージのコストダウンに貢献する。独立後は、中国(大連)オフショア開発委託の経験から、オフショア開発委託による生産革新のコンサルティング、ソフトハウスやユーザー企業の大連オフショア開発を支援。現在は開発作業よりも、プロジェクトマネジメントに重きを置いた会社経営を実践している。日本オフショアビジネス協会理事。



岩崎 博昭氏

(いわさき ひろあき)

合同会社ファースト・ファイブ(代表社員)

東芝および東芝ソリューションにてSE/PM/PMOとして22年間勤務したのち、現在は独立して神戸でプロジェクト支援、モバイルソリューション、オフショア開発をキーワードとしてビジネスを展開している。理念は、国を問わず中小企業でもオフショアビジネスを展開できるような仕組みを構築することであり、自身もオフショア開発におけるコンサルティングや、システムインテグレートに従事している。さらに、中国(大連)においてオフショア開発を実践している。

Masafumi Miyake

Hiroaki Iwasaki